

町田通勤寮だより

NO 29 2011年9月

東京都町田通勤寮

〒194-0045 東京都町田市南成瀬1-5-3

電話 042(739)0491

東日本大震災被災地視察記

東京都町田通勤寮 寮長 丸山文弘

今回、町田市社会福祉法人施設等連絡会（以下、町田市法人連という。）として、東日本大震災の被災地（岩手県・宮城県）を2日間視察する機会を与えられた。その視察の記録の一部をこれから書き記していく。

○平成23年7月31日（日）

午前7時前、町田市下小山田にある「ニーズセンター花の家」から8人乗りの車で（8人乗車）出発する。

途中、トイレ休憩数回と宮城県一関での食事休憩を挟み、午後2時頃宮城県気仙沼に入る。山沿いではまだ洗濯物が干してあるなど生活感のある民家が続いていたが、海の見える場所に出ると様相は一変してしまう。山道のここまでは津波が押し寄せたというのが一目で分かるくらい、はつきりと被害のありなしが区別され、そこからは何も無いあるいは瓦礫の山となってしまう状態が続く。そして、いたるところに潰れてひしゃげた車が積み上げられ、または瓦礫が積み上げられている。地盤沈下により海水が残ったままにはなっていたが、考えていたほど臭いはひどくなかった（打上げられた魚等を撤去したからか）。あたり一面殆ど何も無いのだが、所々に建っている鉄筋製の建物は外枠だけで、中には何も無く完全なる廃墟状態。気仙沼魚市場にも行って見たが、以前にぎやかだった所は当然何もなくなっているが、各所に点々とあるガソリンスタンドだけは元気に営業しているのが印象的だった。『がんばろう東北、がんばろう気仙沼』のキャッチフレーズを、店先に張りながらの営業だった。完全復興には程遠いが、一步一步確実に復興に向けて歩みだしている。

午後2時半過ぎに、気仙沼の高台にある「社会福祉法人洗心会 生活介護事業所夢の森」を訪問する。ここは4月半ばから、東京都社会福祉協議会知的発達障害部会と東京都知的発達障害支援協会が合同で支援に入っている施設。その「夢の森」の管理者の菅野和歌さんか

ら、大震災発生直後からの生々しいお話、特に「夢の森」職員の家とご家族（結婚したばかりの奥様）が津波に流されて、「夢の森」を避難所として利用していたこと、また地震の発生時間があと1時間遅ければ、利用者の送りのためにマイクロバスを運転していて、たぶん全員が津波に巻き込まれてしまっただろう等の詳しいお話は絶句するしかないものだった。震災当初、利用者・職員のほか地域住民も避難してきていたが、指定避難所として認められなかったため救援物資が届けられなかったという。それを役所と交渉し、現実的に避難所として利用されているということと役所に認めさせた菅野さんの行動力には感激させられた。菅野さんご自身は休日だというのに、お話と施設見学で1時間以上も時間を割いていただいた。ただただ、感謝するのみ。

午後6時過ぎに宿のある岩手県平泉に到着する。これで、視察の1日目が終了した。

○平成23年8月1日（月）

視察2日目。午前9時に岩手県陸前高田市の戸羽太市長と面会予定というところで、午前6時半に平泉の宿を出発する。

東京合同支援チームとしてこちらにきていた、町田市法人連のメンバー7名と陸前高田で合流する。ここ陸前高田も気仙沼と同様に、自動車や瓦礫がうずたかく積まれていた。しかし、気仙沼よりも撤去作業が遅れているのではないかと思われた。廃墟と化したビルの中の瓦礫が、未だに手付かずのままに残されているところが数多くあった。

被災した陸前高田市役所にも寄ってみたが、4階建ての庁舎は「搜索終了」の張り紙が貼ってあるだけで、殆ど手付かずの状態で残されていた。現在の市役所仮庁舎はそこから車で10分ほど行く高台に、プレハブで建てられていた。9時から予定通り市長と面会することができ。戸羽市長は町田市鶴川の出身であり、今年の2月に市長に就任してからもよそ者と言われて続けていたが、今回の震災で出身地である町田からの支援が大きく、町田市の出身市長で良かったと言われているというのは皮肉なものだ。

陸前高田市の人口は2万4千人位だが、そのうち2千人が亡くなったか行方不明になり、2千人の方が生活の場を他地域に移したという。市長自身、奥さんを津波で流されているが、市役所職員も半数近くの方が亡くなられたか行方不明になっており、当初は行政機能を果たすことができなかったという。現在は、名古屋市等の役所から支援が入り、何とか行政機能が果たされているという。市として『復興計画』をようやくまとめてきたが、国にその計画を認めさせることができるかどうかこれがこれからの課題だというお話だった。ここで、町田市の障害者施設・法人として何らかの支援を行っていきたいという提案をし、陸前高田市社会福祉協議会と今後協議を行うこととなる。30分間で面会は終了し、市仮庁舎を後にする。

その後気仙沼に戻り、現在も東京合同支援チームが支援に入っている「NPO法人 ケアホームめぐみ」に向かったのだが、途中のリアス式海岸の小さな入り江にも被災した民家が多数あり、そこには重機が入ることができないのか、天井に船が乗っていたり家に車が突っ込

んだ状態のままに残されていた。この状態を見る限り、完全復興にはまだ遠いという印象を持たざるを得ない。高台にある「ケアホームめぐみ」では、サービス管理責任者の菅原満子さんからお話を伺う。ここはケアホームである同時に、児童デイも行っている。支援開始当初はよそ者に迷惑はかけられないということで、東京合同チームの支援導入に反対する声が強かったと言うが、ニーズを地道に聞き取ること（滝乃川学園の高瀬施設長が、ずっと現地でコーディネートしている）と支援を継続的に行っていくことで、この支援はいいという噂が噂を呼び、現在では当初の2倍（5人から10人へ）のデイ利用者がいるという。「東京合同チームには、地域の住民みんなが本当に感謝してですよ」と笑顔で話す菅原さんの言葉には、自分は何をしたわけでもないのに、嬉しくなっていました。しかし、その支援も8月一杯で当面終了し、地元の人達の活動に任せられるということだ。

次に、「アーバン」という結婚式場に行く。ここは、現地の障害者雇用を積極的に行っている所だったが、津波により1階が泥と瓦礫にうずもれてしまった。このままだと事業の再開が不可能で、障害者の雇用も危うくなるということで東京合同チームが支援に乗り出した場所。泥のかき出しから壁・床磨き等を行い、現在では一部事業の再開ができていた。今回訪問したときも、東京合同チームのメンバーたちが床磨きを行っていた。その次にはもつと南に下り、南三陸町で東京合同チームが児童デイサービスの支援に入っている「南三陸小学校」を訪ねる。小学校と共同で使っているという事だが、小学校の教室の窓からは壊滅的になった被災地が臨まれ、何ともやりきれない気

持ちにさせられた。ここで町田の支援チームとは別れ、さらに南に下り石巻に向かう。ここでは偶然にお祭りを行っており、夕方から鎮魂と復興を祈願して花火大会が行われるという事だった。おかげで渋滞に巻き込まれたりもしたが、いらいらするよりも花火大会にエールを送りたい気持ちの方が強かった。

予定していた松島には時間の都合で行くことができず、視察はこれで終了し帰路へと向かい、午後10時頃「ニーズセンター花の家」に到着する。テレビでは頻繁に見ている被災現場だが、生で見なければ分からない、収穫の多い視察だった。今後も、個人として、施設として法人として、町田市法人連として、継続的に支援を行わなければ・・・。



陸前高田市市庁舎正面玄関（8月1日撮影）

ソフトボール奮戦記 秋の大会編

前週末までの予報では台風が通り抜けて爽やかな晴天の下…のはずが台風が進みが遅く、既に上流では雨量の多さからダム放水が決定されており、2日前にして中止となりました。この辺りは河川敷グラウンド特有と言えるでしょう。残念ですが西日本の甚大な被害を思えばそうも言っていられません。謹んでお見舞い申し上げます。

(山内)

生活教養講座 お葬式のマナー

今年度の生活教養講座のテーマは『冠婚葬祭』についてです。まず、第一回目は7月14日に「葬儀参列」について学びました。講師は、葬儀社（ファミリィwith）の方に依頼をして、体感型の内容にしました。葬儀社からは御焼香台を用意してもらい、寮の集会室を斎場のようにみたくて職員が喪服に着替えて遺族に扮したり、遺影やご遺体役まで用意をして雰囲気を作ってみました。

まずは、一人一人受付で記帳する御芳名帳へ記入をして、記入が終わると御焼香に移りました。実際の葬儀では、参列者は御焼香する人の後ろ姿しか見れませんが、今回は御焼香している様子を利用者の皆さんには横から見てもらい、やり方を確認してもらいました。練習とはいえ皆さん真剣に取り組んでくれたので、講師に来てくれた葬儀社の方も感心されていました。葬儀参列は急に起こることなので、

今回の講座が少しでも記憶に残ってもらえたらと思いましたが、※ 追記 ご遺体役を自ら進んでしてくれた職員は、あまりにも寝心地が良かったらしく？ご遺体からイビキが聞こえるというハプニングもありました。

(壇谷)



ボウリング大会☆納涼会

7月16日、毎年恒例のボウリング大会・納涼会を行いました。ボウリング会場は今回も町田ボウリングセンターにて、自治会役員の開会宣言で、ゲーム開始しました。

ボウリングにはもちろん得意な人もいれば苦手な人も毎回ありますが、今回は得意な人が苦手な人にコーチのように上手な投球方法など

教えていた姿が印象的でした。今回はボウリングの得意な人をコーチ役として、苦手な人とチームを組んで、チーム対抗戦にしてみましたらどうかな…?などと考えています。2ゲームを終えて帰寮しました。

納涼会は居酒屋で行うか寮内の食堂で行うか、事前に集会で決を採ったところ、ちょうど半々だったので、代表者同士でジャンケンした結果、寮の食堂で行うことになりました。お菓子やジュース、アルコール等は昼間の内に買出しに行き、料理は今回も成瀬体育館のフレンズさんに注文しての納涼会でしたが、中には「ビールがもつと飲みたい」という寮生もいて、個人的に買い足してきて飲んでいる人もいました。またその納涼会の中で先程のボウリング大会の表彰も行いましたが、今年度新入寮の寮生が男女とも入賞の活躍を見せていました。今年節電しながら、何とか夏を乗り切りましたが、今年度後半も鋭意乗り切っていきたいものです。

(金指)

バーベキュー

8月13日(土)、寮内食堂と中庭を使い、毎年恒例バーベキュー大会が開催されました。男性陣は中庭で炭の火熾しを、女性陣は食堂で食材の下ごしらえを率先して手伝ってくれました。皆さんにとって準備も楽しみの一つのようなのです。今年も炭焼きの他に、たこやき、冷し麺、かき氷などをメニューに加えました。市川副寮長の御手製たこやきは相変わらず人気殺到していましたが、今回はそうめん、冷麦、うどん、

らーめん等の4種類の冷し麺コーナーが完食する程の大盛況でした。「夏といえばそうめん!」と何杯もおかわりする寮生。まるでわんこそばを食べているようでした…。中庭の炭焼き職人達も人数が少ないうなりに頑張ってくれました。今年は大食いの方、少食の方とバラつきがある寮生ですが、皆さんそれぞれの思いで真夏のイベントを楽しんでくれたようです。

(柄本)



地デジ騒動

7月24日正午、地上アナログテレビ放送が終了、デジタル放送へ移行しました。時代の先端を走る通勤寮にあって、「地デジ難民」などありえな…5人もいるのオ？ 自動的に放送が切り替わると思っていた人、テレビが事実上ゲームのモニターとしてのみ使われていて意識していなかった人など様々ですが、中にはテレビ買い替えへの淡い期待も見られました。しかし調べたところ、通勤寮利用者の場合、支援対象としてチューナーが貸与されることが判明。早速「総務省地デジコールセンター」に電話（まさか自分がここに電話するとは思いませんでした）。報道されているように同センターには問い合わせや要望が殺到していたようですが、意外にも一度で繋がりが支援を要請。先方からもかなりの時間を要するとの話が出されていましたが、申請から10日ほどでチューナーが届きました。「わあ！映った！」などとまるで昭和30年代のような反応ですが、当たり前のように見られていたテレビが映らなくなった影響は大きかったようです。

季節の話題

○バーベキューの翌日、機械の返却まで余裕があったこと、氷やシロップが余ったことなどから臨時にかき氷。テレビでは地元高校の甲子園での活躍が映し出され：夏らしい1コマでした。

地域生活学習

8月21日（日）、今年度一回目の地域生活学習を行いました。今回は通勤寮職員とグループホーム援助センター職員の他に、通勤寮の卒業生で、現在グループホームで生活している二人の先輩（一人は地域生活7年、もう一人は14年です）に来てもらい、「地域での生活って、通勤寮とどう違うの？」という事をテーマに学びました。

前半はお金について。資料を見て、通勤寮、グループホーム、民間アパートでの一人暮らし、それぞれの家賃や生活費がいくらくらいかかるか比較検討し、その後、二人の先輩に、お金のまつわる話を聞いていくと、「地域に出て初めて光熱水費の明細を見て、えっこんなにか使うのか、と驚きとともに実感した」「通勤寮にいた時より支払うものが増えて、お金のやりくりが大変になった。障害基礎年金を使わないと生活できない」という切実な声上がる一方、「パチンコやゲームにお金をかけているけど、以前より安くあがる所を開拓するようになった」「門限はあるけど、好きな所へ出掛けられるのが、生活上の楽しみ」という声も出ていました。いずれにしても、守られた施設である通勤寮を出て地域で暮らすには、今まで以上にきちんと仕事を続けて安定した給料を確保する事が大切になります。

後半は地域生活におけるルールやマナー、責任等について話しました。通勤寮内では何かあっても職員から注意されるだけで済んだり、仲間内で済まされますが、地域で迷惑をかけると、それでは済まない

大きなトラブルになってしまいます。先輩のお二人からは、「グループホーム内の当番掃除の他、マンションの他の住民に対して、ゴミの出し方やゴミ置き場の当番掃除をきちんとやらなくては、と責任を感じるようになった」「以前は好き勝手にしても構わないと思っていたので、仕事帰りに夜中まで遊んで、寝不足から体調不良や欠勤が多かったけど、30歳頃から門限を守るようにしたら、体調を崩す事が減ったし、仲間と一緒に過ごす時間も増えた事を実感した。地域で暮らすようになってから、そういう仲間や支援員も含めて、色々な人と出会う機会が多くなった事が良かった」との話が出ていました。また、在寮生へのメッセージをお願いすると、「地域社会では幅広い年齢層の人がいるので、お互い気遣いが必要。また、何かあったら溜め込まずに相談するように」、「地域生活では自分で責任を持つ事が多くなるので、仲間と助け合って頑張る」との事。実際に地域社会で暮らす中で、実感のこもったメッセージを頂きました。

その後男女別に分かれて、二人の先輩にそれぞれ自分の暮らすグループホームを案内してもらおうと、事前に言われた「騒がない、触らない、覗かない」をよく守り、先輩の部屋や台所、食堂、掃除当番表や外のゴミ置き場など、見せてもらえた範囲を興味深く見学していました。

帰寮後アンケートに記入して講座は終了となりましたが、アンケートの結果を見ると、「地域生活について分かった」「お金がかかって大変だと思った」「ルールを守って生活するのが大切という事は、地域でも通勤寮でも同じだと思った」等の感想が多かったです。他にも「単

身型グループホームについて、もっと知りたい」「節約方法を教えてほしい」等の記入もあり、次回は地域生活の実際について、より具体的に踏み込んだ内容で、また実施したいと思います。

(金指)



今後の予定

※ 編注 変更の場合あり 日付なきものは詳細未定

9月

22日 就労講座

24日 ソフトボール練習

10月

9日 クリーンデイ

22日 ソフトボール練習

28日 保健講座

30日 学園バザー

11月

12日・13日 関東地区通勤寮利用者集会（スピーチフォーラム）

今年は神奈川県が開催担当 会場は箱根温泉です

※次回保護者会は11月20日（日）13時45分を予定しています。

スピーチフォーラムの日程上、通常より一週繰り下げとなっております。ご注意ください。次回はオンブズマン懇談会を予定しております。

編集後記

夕方に外へ出ると美しい夕焼けで周囲の空気も赤く染まりました。まだまだ暑さが残りますが秋は確実に訪れていますね。皆様ご自愛下さいませ。

（山内）

「町田通勤寮便り」は、つるかわ学園ホームページでも御覧頂けます。